

第8回 富山駅周辺整備事業推進協議会

富山駅高架下自由通路における空間づくりの方向性について

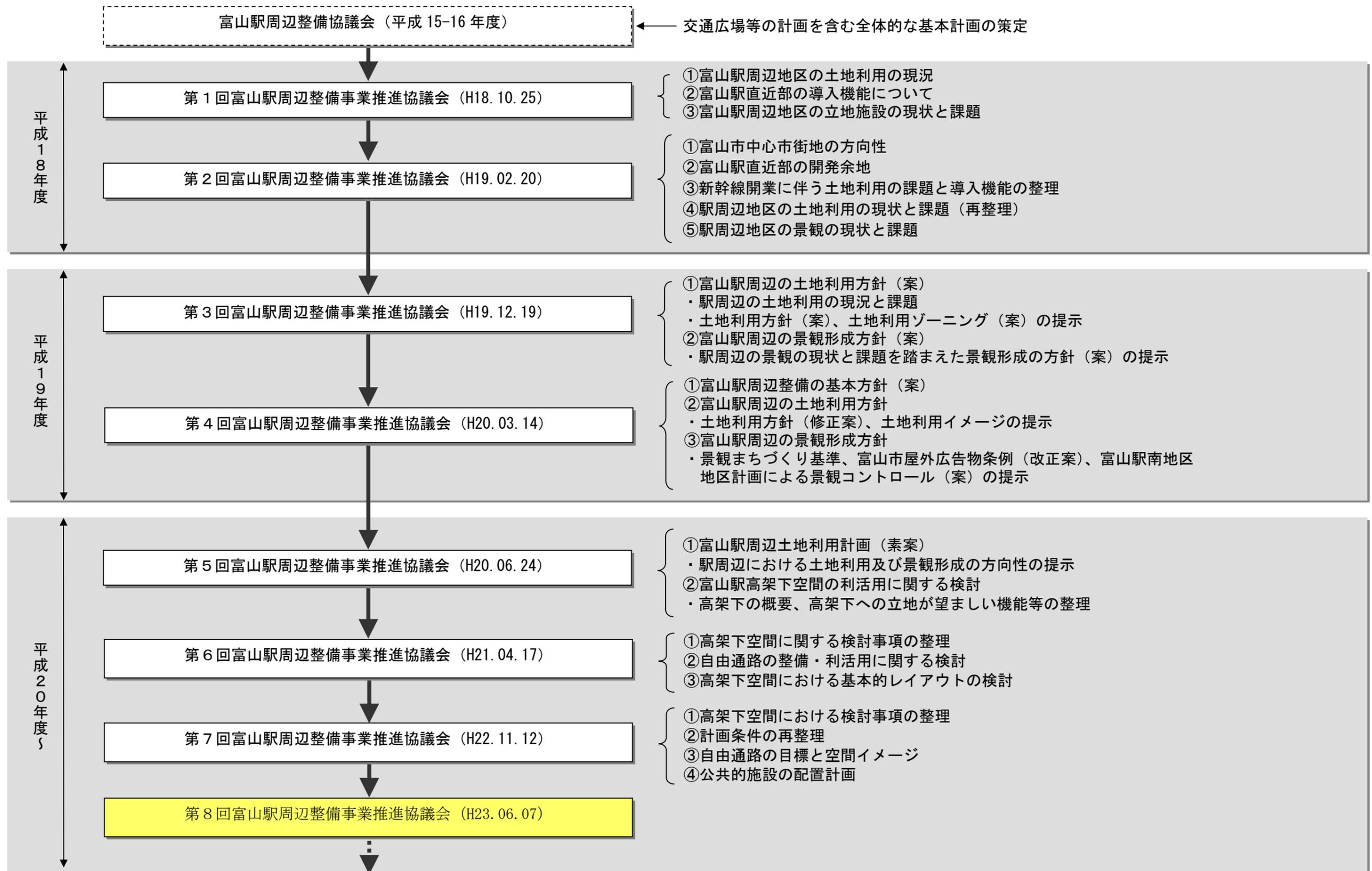
目 次

1	これまでの流れ-----	1
2	富山駅高架下自由通路における空間づくりの方向性について-----	4
3	富山駅高架下南北自由通路の空間構成（案）について-----	5

平成23年6月7日

富 山 市

1. これまでの検討の流れ



※以降の検討課題…駅舎設計を受けたシェルター等のデザイン展開/LRT軌道との境界部の処理/サイン計画

○自由通路の目標と空間イメージ

○富山駅周辺整備の基本方針

県都富山の新たな顔をつくる

多彩な公共交通を快適につなぐ

都市拠点としての機能をそなえる

○富山駅周辺整備の基本方針

～南北の市街地と公共交通を快適に連続させ、LRTが際立つ、駅と一体となった広々とした明るい自由通路～

新幹線や在来線の改札口に面し、
「富山の第一印象」となる場

富山が今まで進めてきた
新たな魅力が伝わる空間

- ① セントラム・ポートラムが改札口から見える空間構成
- ② 駅舎や駅前広場と支え合う空間構成
- ③ 環境負荷低減に配慮した施設や素材



LRTが見える空間



光を取り入れ、空調など環境負荷を低減
(左：旭川駅、右：さいまた新都心駅)

鉄道と、南北通路内のLRT、南・西・北口駅前広場といった、多彩な公共交通機関をつなぐ動線

公共交通の快適な乗り換えを支える
動線の確保と、適切な情報提供

- ④ 見通しを確保し、わかりやすく、移動距離が短い空間構成



平面移動で乗り換えできる空間構成
(横川駅)



見通しを確保した空間づくり (左：金沢駅、右：旭川駅)

南北の市街地をつなぎ、富山の良さが
感じられる機能

南北の市街地を結ぶとともに、新幹線開業のインパクトを市域につなげる仕掛けづくり

- ⑤ 南北を視覚的にもつなぐ空間
- ⑥ 観光やまちなかの魅力を伝える仕掛けがある空間
- ⑦ にぎわいと交流が生まれる仕掛けがある空間



富山の良さを伝える仕掛け
(品川駅)



人がいる空間づくりと演出の仕掛け
(左：グランドプラザ、右：山形駅)

2. 富山駅高架下自由通路における空間づくりの方向性について

○これまで議論いただいた「自由通路の目標と空間イメージ」について、まちづくりも踏まえた戦略として、5つのフェーズをもって空間づくりを進める

フェーズ1 山と海の要をつくる

～立山連峰と富山湾に囲まれた豊かな自然の結節点となる魅力的な空間づくり～

- 豊かな自然を活かした山や海の観光の拠点となる空間や仕掛けづくり
- 海の幸と山の幸が集まるにぎわいの場づくり



(左)市街地から見た立山連峰、(右)富山湾と立山連峰に囲まれた富山

フェーズ2 人の要をつくる

～様々な人が出会い、^{たたず}佇み、交流の中心となる空間づくり～

- 様々な過ごし方ができる、様々な居場所づくり
- 賑わいを演出する空間づくり



様々な居場所づくり(神奈川芸術劇場)

フェーズ3 街の要をつくる

～新幹線とLRTが立体交差する世界に類を見ない空間として

LRTを核にした新しい都市空間の形成～

○LRTを中心とし、魅力的にデザインされた都市空間づくり

○わかりやすく、スムーズに乗り換えできる空間・しくみづくり



LRT軌道と一体となった空間のイメージ



わかりやすさを支える見通しを確保した空間

フェーズ4 文化の要をつくる

～最新の情報が集まり、先進性があり、新しさを表現する空間形成～

○様々なイベントが開催できる文化性の高い空間づくり

○富山固有の産業文化の発信が可能な空間づくり



ステージや観覧席となる中二階デッキ(東京都)



先進性のイメージ(フランス:TGVアビニオン駅)

フェーズ5 環境の要をつくる

～環境負荷の小さな公共交通をはじめとした

最先端の環境モデル都市の形成～

○エネルギー効率の高い

公共交通体系の構築による環境都市づくり

○快適かつ、環境負荷が低く

自然と共生する空間づくり

左:開閉可能なファサード(ドイツ:ベルリン ダイムラーシティ)

右:トブライトによる自然採光(ロンドン サウスワーク駅)



3. 南北自由通路における空間構成（案）について

3-1. 見通しとにぎわいの演出の確保

① 見通しの確保

見通しの確保は、過去の検討経緯より、次の目的で行う。

- 1) 南北の街区を視覚的にもつなぐ
- 2) LRT や自由通路に居る人を引き立てる
- 3) 安心して、安全に利用できる空間づくり
- 4) 移動経路を見通せる、乗り換えしやすい空間づくり

一方、「さみしい空間」とならないよう、にぎわいの演出もあわせて検討する必要がある。

② にぎわいの演出

見通しを確保しつつ、雑然とした空間とならないよう、次のハード・ソフト施策を用い、にぎわいを確保・演出することが求められる。

1) ハード施策によるにぎわいの演出

手法	内容	その他
◇空間構成	・ 動線を阻害せず、目立つ位置に、居ごちの良い空間をつくる 例) 待合いなどたまり空間 例) イベントスペース	空間構成を決定する初期に検討
◇空間イメージ	・ 人や活動を引き立てる床材や壁の素材や色彩、照明	空間の設計時期に検討
◇導入施設	・ 快適な環境をつくる施設 例) ベンチなど休憩施設 例) 暖房など空調設備 例) デジタルサイネージや無線LANなどの情報施設 ・ 場に変化や華やかさを添える施設 例) フラッグや演出照明 例) 花やインテリアプランツ	ソフト施策とあわせて検討

2) ソフト施策によるにぎわいの演出

手法	内容	その他
◇イベント	・ 動線と見通しを阻害しない位置で雑多な場とならないよう実施 例) 富山の物産の紹介・販売 例) コンサートなど文化イベント 例) ショールーム的な展示	空間構成を決定する初期
◇情報発信	・ 映像や富山の物産の展示・放映	空間設計時に決定
◇サービス	・ 清潔な空間、良好な雰囲気維持 ・ 地元との交流 例) コンシェルジュ、観光ボランティアなど	維持管理とあわせて検討

3) 空間構成の検討時期におけるにぎわい演出

イベント等の開催がない場合でも、にぎわいを演出するには、自由通路にたたずむ人を活用するような空間構成が考えられる。

つまり、見通しを阻害せず、目立つ位置に、「人がいる場所」を設定することが有効であり、南北自由通路では、天井まで7.5mと十分な高さがある新幹線側高架下部分におけるの見通しを阻害しない高い位置を活用することが考えられる。



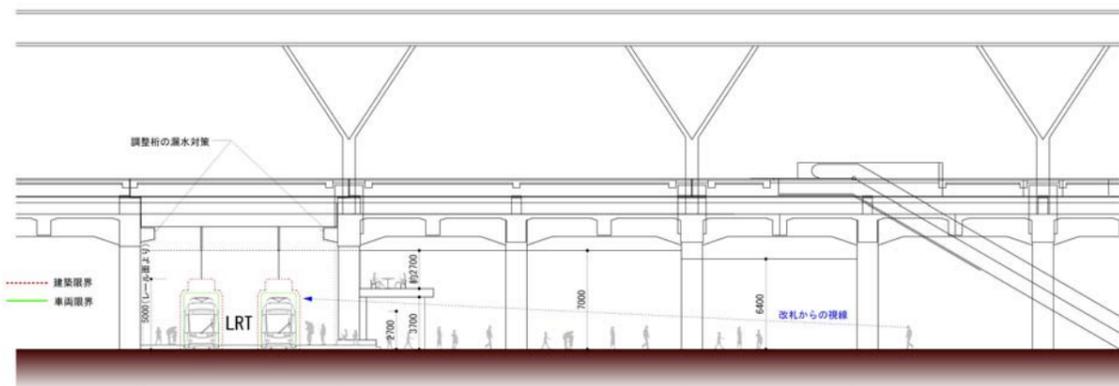
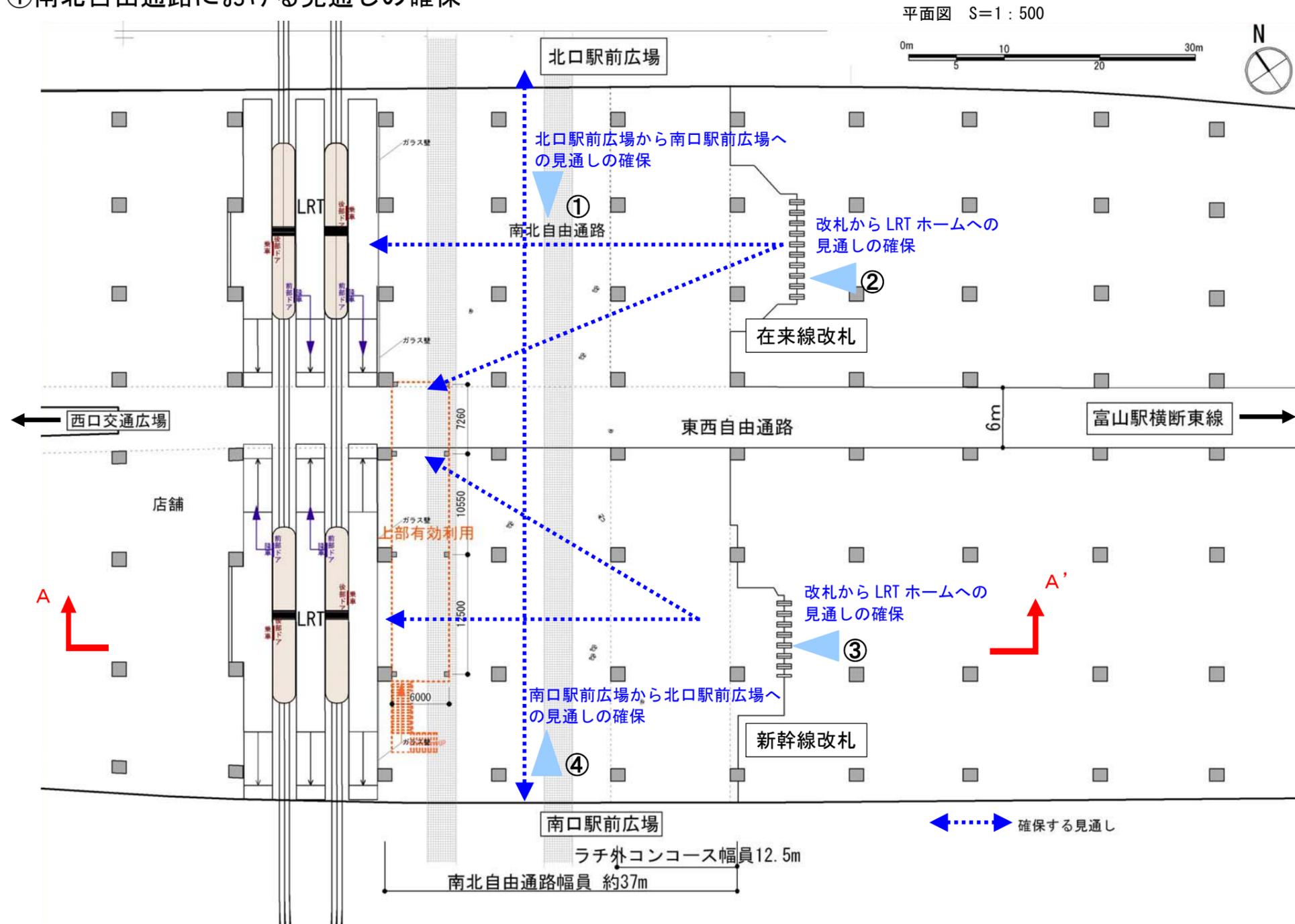
ステージや観覧席となる中二階デッキ(東京都)



新幹線部分の上空を活用したにぎわい演出(新幹線改札より)

3-2. 南北自由通路における空間構成（案）について

① 南北自由通路における見通しの確保



A-A' 断面図 S=1:500



① 在来線側から新幹線側を望む



② 在来線改札からLRTホームを望む

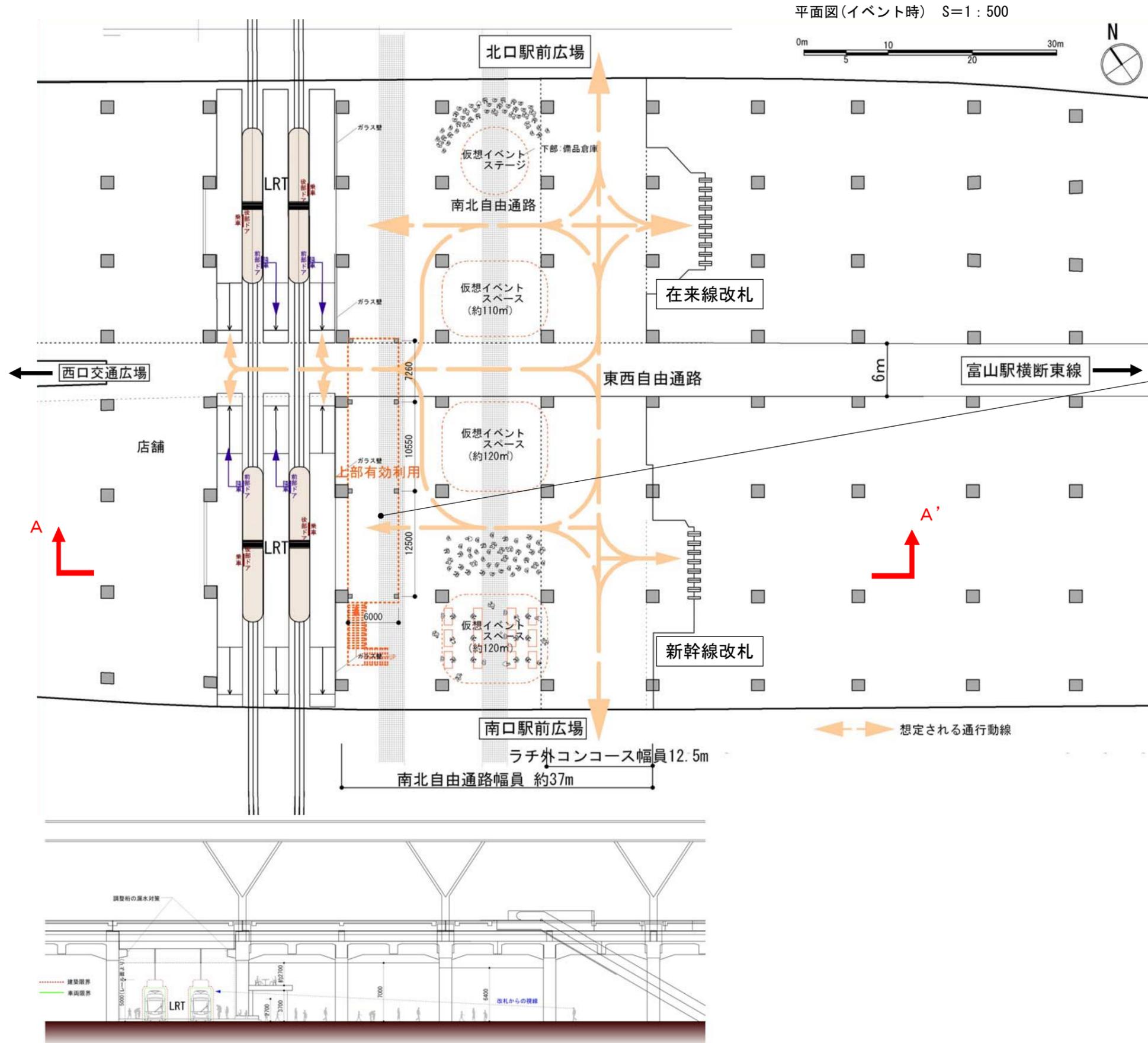


③ 新幹線改札からLRTホームを望む



④ 新幹線側から在来線側を望む

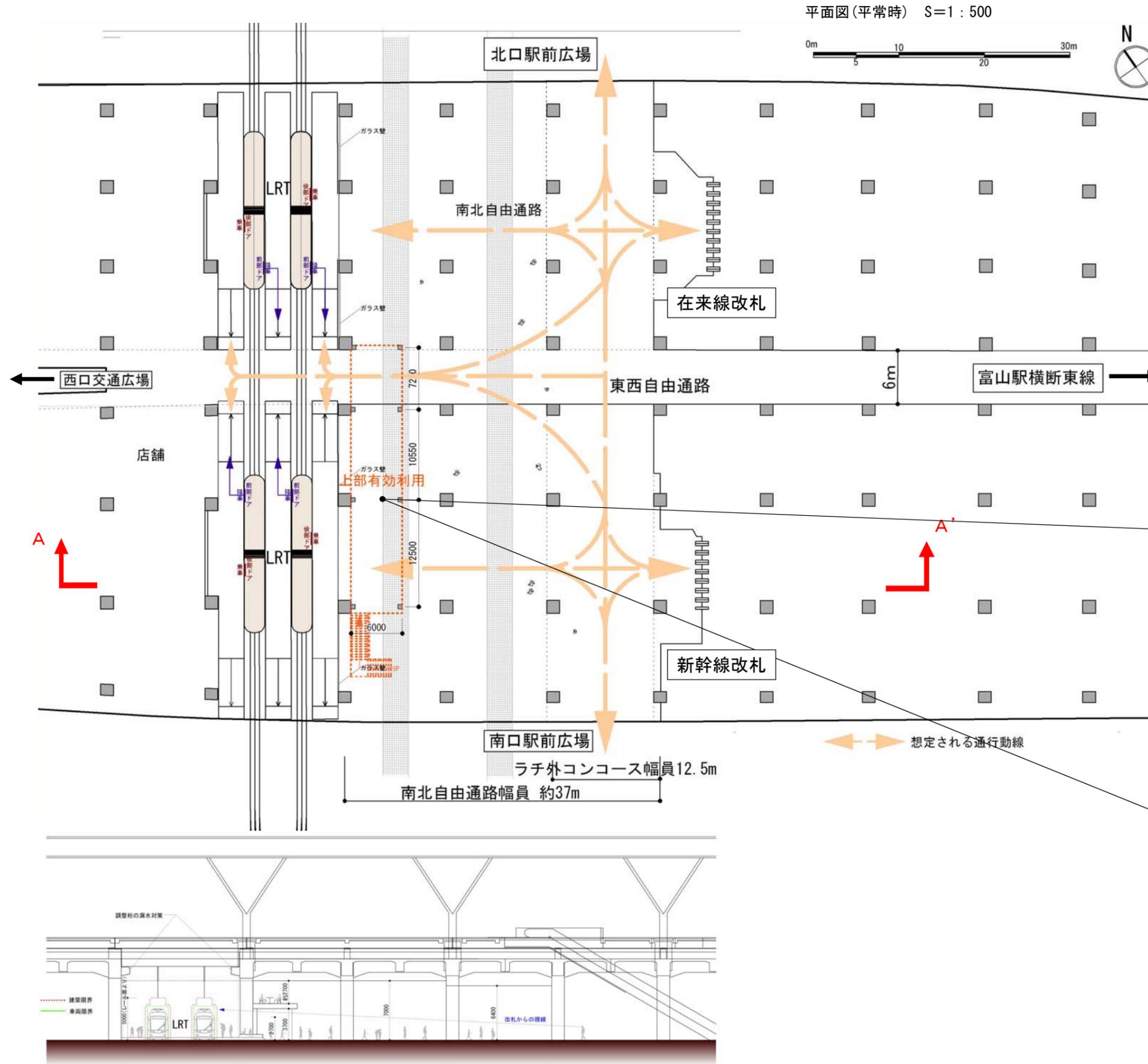
②イベント時(コンサート、物販等)の空間構成(案)



ステージや観覧席となる中二階デッキ(東京都)

A-A' 断面図 S=1:500

③平常時の空間構成(案)



A-A' 断面図 S=1:500



にぎわいを生むツールとしてのデジタルサイネージ(品川駅)



待合やインターネットの出来る場所のイメージ(新宿駅)



中二階デッキのある空間のイメージ(新宿駅)